愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	経営戦略論		
担当者(Instructors)	Tran ThiTuyetNhung	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

近年、企業を取り巻く経営環境の変化が激しくなってきている。また顧客ニーズが多様化され、ビッグデータ・人工知能・IoT等のデジタルテクノロジーの発展が著しく、企業間の競争も激しくなってきている。企業が持続的に競争に勝っていくためには、この経営環境の変化や競争企業との関係に対応した 経営戦略の策定と実施が必要となる。この講義では、経営戦略の基本的な理論や概念を学習する。経営戦略の具体的な策定と実行のプロセス についても解説する。理論を理解した上で、企業がどのような経営戦略を立てるのか実際のビジネス事例を用いてディスカッションしていく。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義中で具体的なケースを用いてディスカッションを適宜行う

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	経営戦略とは、経営戦略論を学ぶ意義 講義の構成、評価方法、教科書・参考書など	□
第2回	経営環境分析	外部環境、内部環境、市場分析、競合分析 業界構造分析	□
第3回	経営資源の分析	経営資源の定義 経営資源分析の視点、価値連鎖の分析、事業構造の分析 セグメンテーション 経営資源と戦略：競争優位、コア・コンピタンス、VRIO	□
第4回	差別化	差別化とは、差別化の要因、実施・評価方法 製品差別化（経済価値、製品差別化と持続的競争優位）	□
第5回	コストリーダーシップ	コスト・リーダー：価格による競争の前提条件 コスト優位の要因（規模の経済、範囲の経済） 価格設定、価格政策	□
第6回	顧客価値	価値：品質と価格 顧客価値と競争優位	□
第7回	競争ポジション	競争戦略と全社戦略 事業の定義 企業ドメインとは、企業ドメインの機能、企業ドメインの定義	□
第8回	事業の定義と企業ドメイン	競争戦略と全社戦略 事業の定義 企業ドメインとは、企業ドメインの機能、企業ドメインの定義	□
第9回	垂直統合	垂直統合の定義、市場と仕組 垂直統合のメリット・デメリット	□
第10回	多角化	多角化と垂直統合 多角化の動機 事業多角化による効果	□
第11回	合併回収（M&A）	M&Aとは、メリットとデメリット、経済効果	□
第12回	国際戦略	国際経営、国際戦略の経済価値、国際戦略における組織体制	□
第13回	地域企業の戦略	ドメインとしての地域社会、企業と地域社会との関係 地域企業の戦略的特徴 地域企業のネットワーク戦略とクラスター 地域企業の戦略と地域の発展、地域活性化の方法	□

第14回	経営戦略と社会	企業と社会 企業の社会的責任とCSR経営 経営戦略と国際社会、企業ガバナンス	□
第15回	総括	復習・総括	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

予習は配布資料を熟読しておくこと（２時間ほど）。復習は各自の講義ノートを整理し、疑問点をまとめ、次の講義にける質問の発言に備えること（２時間ほど）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

質問は講義中に随時受け付ける。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019地域ビジネスDP1	企業がどのような経営戦略を立てるのか実際のビジネス事例を分析する。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			40%	60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内課題及びテスト

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	開講時に指示する。	
2		
3		
4		
5		